

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度 第4回 相模原市下水道事業審議会		
事務局 (担当課)		下水道経営課 電話042-707-1840 (直通)		
開催日時		平成31年3月19日 (火) 午後2時～午後4時		
開催場所		相模原市立総合学習センター2階 セミナールーム		
出席者	委員	13人 (別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	13人 (下水道部長、下水道経営課長、下水道料金課長、下水道保全課長、下水道整備課長、津久井下水道事務所長 他7人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 相模原市下水道ビジョンの改定について (2) その他		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 相模原市下水道ビジョンの改定について

<事務局から資料1-1～1-2に基づき説明を行った後、質疑応答が行われた。>

- 現行ビジョンの取組状況の中で、「予定どおり進んでいる」や「目標値を下回る」などの表現があるが、予定や目標値などの基準が明確化されていないため、進捗状況を的確に判断することは困難である。
- 専門部会で議論した際には、仮の成果指標が具体的に設定され、その指標の達成度をベースに客観的に進捗状況の評価を行ったが、今回は資料の構成上、その部分が欠落していると思われる。目標値(参考数値)を付記するよう工夫していただきたい。
- 経営健全化の取組は継続して実施していくものであり、施策の目的を完了したという表現は馴染まないのではないか。
- 現行ビジョンで想定していた取組が完了したということであり、健全化自体が完了したということではないので、表現を修正させていただく。
- 過剰な表現になっている部分もあるので、よく推敲していただきたい。
- 「自主的な防災対策の強化を促すためのソフト施策」や「スケールメリットを活かした効率化」とは具体的にどのようなものか。
- ハザードマップの中に、「自助」を促す内容や、止水板の設置を呼びかける内容を記載するなどの周知を行っている。また、効率化の具体例としては、BCP訓練の共同実施や市境での下水道管きよの相互利用などがある。
- 汚水処理システムの最適化については、スケールメリットが活かされない地域に分散型の処理システムを導入するのが最適化とも言えるので、施策内容を修正する必要があるのではないか。
- 分散型とスケールメリットの両面が施策内容に含まれるものと理解しているが、内容説明の文章が一連となっているので誤解を生じられると思われる。表現を工夫されたい。

- 地震によって下水道に損害が生じたということを報道等であまり耳にしたことがないので、BCPの必要性が不明である。
- 上水道や電気の方がライフラインとして重要視され、報道等はあまりされていないが、実際には下水道施設も破損等の被害を受けており、特にトイレが使用できなくなるような状況が発生している。BCPはこのような状況を概ね1か月以内に復旧させることを目的に策定されている。
- 報道による周知が行われにくいのであれば、より一層広報活動は重要である。

- 効率化のため「事務や工事の発注等をまとめる」という例示には金銭的な意味合いが強く感じられるが、本来的には技術的な部分を例示したほうが良いのではないか。
- お見込みのとおり、経営的な側面ではなく、汚水処理の効率化に関する技術的な例示をすべきであり、修正させていただく。

- 農業集落排水事業の公共下水道への編入については、所管の問題や法的な制約も想定されるが、解決できる見通しなのか。
- ご指摘のとおり、農業集落排水事業は農林水産省、公共下水道は国土交通省という所管の違いを含め、様々な解決すべき課題があるが、長期的な視点の中で、どのような形が望ましいかを考えていきたい。

<事務局から資料2に基づき説明を行った後、質疑応答が行われた。>

- 重点施策の具体的な取組について、詳細な説明がなされているが、今後はどのような内容が加わるのか。
- 施策ごとに、達成度を測る指標を加えていきたい。

- 「不明水対策実施計画」は既に完成しているものか。
- 今後策定を予定しているものである。

- 生活保護には下水道使用料が含まれて支給されていると理解しているが、受給者に対しての減免措置も同時に行われており、見直すべきではないか。
- 生活保護に下水道使用料が含まれるかについては疑義があると認識しているが、本市として現状見直しの予定はない。

- 人材育成や技術継承の取組について、従前から実施していたのであれば、今後より一層充実させる趣旨の表現をすべきではないか。
- ご指摘のとおりであり、表現を修正させていただく。

- 現行ビジョンを評価し、その結果を方向性として施策の重点化をするのであれば、取組数が過大であると職員のマンパワー的にも不安があるため、項目を絞り込んだほうがよい。

- 下水道は災害時に使用できなくなる可能性があることなどについて、広報等を通じて広く市民に理解してもらうべきである。

- 人材確保の取組については、具体的にどのような手法がとられているのか。
- 市職員が直接大学等に出向き、本市への関心を高めるためのPR活動などを行っている。

(3) その他
特になし

以 上

相模原市下水道事業審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	出 欠 席	備 考
1	おちあい かつじ 落合 勝司	相模原市自治会連合会（緑区）	出席	
2	たけだ みきお 竹田 幹夫	相模原市自治会連合会（中央区）	出席	
3	もり いつお 森 逸雄	相模原市自治会連合会（南区）	出席	
4	おちあい ゆきお 落合 幸男	相模原市農業協同組合	出席	
5	おおの のりお 大野 則夫	相模原商工会議所	出席	副会長
6	はやし かよこ 林 加代子	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら	出席	
7	たぐち めぐみ 田口 めぐみ	さがみはら消費者の会	出席	
8	わたなべ かずひろ 渡部 一浩	相模原の環境をよくする会	出席	
9	かわしま ゆみこ 川島 由美子	公益財団法人 神奈川県下水道公社	欠席	
10	にしかわ まさし 西川 雅史	青山学院大学経済学部教授	出席	会 長
11	ひろた はるあき 広田 啓朗	武蔵大学経済学部教授	欠席	
12	きし とおる 岸 徹	日本公認会計士協会神奈川県会	出席	
13	しのはら なおひこ 篠原 直彦	公募委員	出席	
14	すだ おさむ 須田 理	公募委員	出席	
15	もりや としひこ 守屋 俊彦	公募委員	出席	